



翔舞

令和6年12月12日 第14号

文責：校長（田中）

学校公式ブログは
右のQRコードから



地震への防災意識と当事者意識を高める

いつかは大きな地震が起きること、そして地震への備えが大切であることは誰もが理解しているものの、心のどこかに「自分の近くでは起こらないだろう」と考えてしまいがちです。しかし、お正月というまさかのタイミングで能登半島地震が起きました。元日から避難所となった新潟市内の某中学校では、地震発生30分後には住民による防災組織が立ち上がり、避難所の運営が始まりました。メンバーの中にはその中学校を卒業した大学生がおり、「(避難所の運営に)自分の中学生時代の防災学習が活かされた」と話したそうです。災害は他人ごとではないことや、中学校での防災学習の重要性を実感した1年前のできごとでした。

「地震災害を自分事として捉え、いざという時に本当に役に立つ力を身につけてほしい」

「月瀉の一員として、地域のために自分ができることを考えてほしい。」

そんな思いから、今年度は、地震をテーマにした防災学習を行ってきました。生徒たちは新たな知識を習得し、地震災害を自分事として捉え、自分たちにできることを真剣に考えました。ご協力いただいたNPO法人ふるさと未来創造堂の中野雅嗣様からは、いつも真剣に取り組む生徒たちに対して、とても高い評価をいただきました。今回の学校だよりは防災学習特集です。

■第1回（10月31日）

「地震に対してどのような備えが必要か」

「家庭や地域では、地震に対してどのような備えが必要か」というテーマで、グループ活動を行いました。予想以上に多角的な意見が出て、講師の中野様が驚いていました。

生徒たちから出た意見をもとに「“月中版”地震対策チェックリスト」を作成し、自分の家の備えの状況を各自で確認しました。資料はお子さんのiPadに入っていますので、ご活用ください。



□第2回（11月14日）

「月潟地区の防災上の課題は何か」

地域全体の備えの状況を確認するため、地域代表の方からお越しいただき、現状と課題について質問しました。地域の方からは、現状と課題について率直にお話いただきました。生徒たちは、避難所運営の在り方について課題意識をもっていました。この日は起震車がやってきました。



■第3回（11月18日）

「避難所運営を疑似体験しよう」

「避難所運営ゲーム」に挑戦しました。災害発生時、避難所ではどのような事態が発生し、運営者はどのような判断を迫られるのかをゲームを通して疑似体験しました。最後に「地域のために自分たちができること」を発表し合いました。



○月潟の一員として、地域でできる防災訓練や、周りの人との関わりなどを大事にしていきたいです。（3年 Kさん）

○地域の方との交流が何より大切だと分かりました。高齢の方や障がいのある方、1人家庭の方などをしっかり把握して助け合っていくところが必要だと思いました。（3年 Kさん）

○もう少し災害に対する意識を深めることをしたいと思いました。食料や日用品の備蓄をしっかりとしたり、危険な家具の固定だったりなど不十分な部分や備えてない部分が多い気がするなと思いました。今一度、家庭内での話し合いをしたいなと思いました。（2年 Yさん）

○避難所を運営することの大変さに気づきました。もし、自分が避難所を運営したり避難者の手伝いをしたりする場面では、すぐに自分から行動して、少しでも困っている人の役に立てるようにしたいと思いました。（1年 Tさん）

.....
学習を通して「自分も地域の防災に貢献したい」という想いを深めた生徒が多かったように感じています。11月24日（日）に行われた月潟地区防災訓練に9名もの月中生が参加してくれたのはその表れだと思います。最後に、学習にご協力いただいた地域の方の感想を紹介します。

○生徒の皆さんの防災意識の高さに驚かされました。自分自身も防災意識を高めていく必要があると認識させられました。

○今後も地域で活躍してくれることを期待しています。避難所運営に関して大きな力になってくれると期待していますし、今の中学生ならできると感じました。

○グループ全員からあがった言葉が「地域の方との繋がりをもっともちたい」という内容でした。とても嬉しく頼もしい思いに今後の期待が「大」です。

○中学生の時にこのような学習ができることは有意義で、これからの活動に役立ててほしいと思いました。

■□■ 保護者の皆様へ（お願い） ■□■

防災学習の総まとめとして、学んだことや考えたことを家の人にプレゼンすることを冬休みの宿題にしました。後日、お子さんからお話がありますので、ご協力をお願いいたします。

